

タキイ 品種大解剖!

ハクサイ
オレンジクイン編

タキイ研究農場 大上 貴之



オレンジクインは従来の黄芯品種とは球内色が異なるオレンジ色の白菜で、一般的なハクサイが含有しない機能性成分スリコピンを含むことが特長です。

「オレンジクイン」の最適作型は中間地での11〜12月上旬どりですが、管理次第で1月上旬中旬どり、5月中旬〜6月上旬どりが可能です。

1月上旬中旬どり

中生種と比べ低温肥大性と耐寒性が劣るため、年内に生育を進めた状態で結束を行うことが良作のポイントとなります。そのためには播種期を8月末〜9月上旬とし、中生種より2〜3日早めに播種してください。結束は11月下旬〜12月上旬の霜が2〜3回当たった後、外葉がやわらかくなるころがおすすめのためタイミングです。作りやすい11〜12月だけでなく春、冬栽培に挑戦して出荷時期の拡大をねらってみてはいかがでしょうか。

5月中旬〜6月上旬どり

ハクサイはシードバーナリ型の作物で、播種直後から低温に感応して花芽分化します。定植後は厳重に保温しても花芽分化を抑制することは難しいので、育苗期間中に結球に必要な葉枚数を確保することが原則です。育苗中の最低気温を13℃以上とし、定植苗の目安は本葉6枚程度の大苗です。老化苗を防ぐために容量の大きな72穴セルトレイやポットで育苗しましょう。

定植後の管理は植え付け時期により異なり、境界線は1日の平均気温が10℃を超えるころ、桜(ソメイヨシノ)の咲く時期です。5月中旬収穫をねらう3月上旬定植の場合は、トンネル設置が必要となります。活着を促すため密閉管理したのち、生育に合わせてトンネルの開閉管理を行います。トンネル撤去のタイミングは3月下旬(平均気温10℃)が目安です。

6月上旬収穫をねらう3月下旬定植の場合、トンネルは不要ですが、活着を促すためベタがけ資材を利用してください。

温度上昇にともない病害虫が問題となるため、ゴールドエンウィーク以降の結球期にしっかりと登録薬剤の散布を行い、軟腐病対策、アブラムシなどの防除に努めましょう。

「オレンジクイン」11〜12月どり栽培例

畑の準備 植え付けの2週間前までに10㎡当たり堆肥20kg、苦土石灰1kgをまいて土に混ぜ、元肥として1週間前に化成肥料2kgをまいてよく耕す。

発芽適温 20〜25℃

生育適温 15〜20℃

結球適温 15〜20℃
4℃以下で結球の進行は停止。

タネまき

- タネまき時期は最も育てやすい8月中旬〜8月末(11〜12月収穫)が基本になる。
- 定植まではポットやセルトレイで育て、寒冷紗や防虫ネットをかけて育苗すると、害虫や高温対策になる。

定植

植え付けから
14〜20日後

植え付けから
35〜40日後

植え付けから
45〜50日後

植え付けから
65〜70日後



128穴セルトレイの場合、タネまきから20〜25日後、本葉4〜5枚が植え付け時期、株間は40〜45cmとる。定植後7〜10日目に中耕も兼ねて追肥を行う。
※追肥は10㎡当たりのチッソ成分量で40〜50gとなるよう施肥する(チッソを16%含む化成肥料で250〜300g)。

外葉の発育を促すために2回目の追肥(1回目と同様の施肥量)。

中心の葉が立ち上がってくる。この時期は干ばつに注意。

結球開始。肥効が切れないように注意。

結球部を触ってみてかたくしまっていたら収穫適期(2.5kg以上)。12月以降は防寒のため、外葉を持ち上げておきましょう。